

福岡市総合計画審議会
第3回 都市の成長部会
会議録

日時 平成24年8月3日(金) 15時30分

場所 天神ビル11階 11号会議室

出席者（五十音順、敬称略）

青木 計世

小俣 郁雄

後藤 俊介

富永 周行

星野 裕志

安浦 寛人

阿部真之助

甲斐 敏洋

高比良拓児

藤野 直人

水城 四郎

山倉千賀子

池内比呂子

小塩 正己

出口 敦

古川 清文

村上 樹人

李 環宇

福岡市総合計画審議会
第3回 都市の成長部会
〔平成24年8月3日（金）〕

開 会

1 開会

○星野部会長 それでは時間になりましたので、ただいまから福岡市総合計画審議会の第3回都市の成長部会を開催したいと思います。

まだご出席予定の方でいらっしゃっていない方もおられますけれども、今日も審議する内容が非常に多いので、簡潔に要領よく進めていきたいと思います。それでは、よろしくお願ひいたします。

まず開催の前に、事務局より光山部長にお話をいただきたいと思います。

○事務局（光山） 前回の部会でご報告をさせていただきましたが、生活の質部会の中村健士委員が7月にお亡くなりになりましたので、そのご後任といたしまして、福岡市自治協議会等7区会長会の代表でいらっしゃいます結城勉委員にご就任いただいております。資料1に委員名簿がございますので、後ほどご参照いただければと思っております。

私からは以上でございます。

2 審議（基本構想、基本計画）

○星野部会長 それでは、今日の3回目の部会の位置についてでございます。資料2をごらんください。第1回目と第2回目のこの部会で出していただいたご意見を踏まえてご用意いただいた修正案と、今までまだ審議の対象となっていなかった「区の目標」をあわせて皆様にご審議いただくこととなります。

そして次回は、都市の成長部会は次との間隔が短かくて1週間後の8月9日に予定されていまして、ここでも今日に引き続きこの修正案についてご意見をいただくんですけども、一応、本日の第3回部会で一通りできる限りのところまで修正案をまとめていただいて、最後、4回目はその見直しをすることを考えております。ですから、3回目、4回目は、同じように修正案の審議となっておりますけれども、ご意見を出していただける範囲で今日の3回目のできるのところまで行きたいと思ひます。

それでは、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○事務局（藤本） それでは、資料を確認させていただいた上、前半のご説明をさせてい

ただきたいと思います。

まず、資料1が名簿でございます。そして資料2が今、部会長からお話ございましたスケジュールでございます。資料3は、主な意見と修正内容ということで書いております。資料4として総合計画の素案というものがございます。資料5として施策の全体の体系表、資料6として基本計画における成果指標について、資料7として施策検討用参考資料、資料8として空間構成目標、資料9として区の目標を挙げさせていただいております。そして、もう一枚、意見・質問票ということで、本日は事前に資料をお配りできませんでしたので、ご意見が十分いただけなかった場合に、後ほど送っていただくペーパーを置かせていただいております。

○星野部会長 お手元の資料1から9はよろしいでしょうか。

それでは、今3時35分で、これから6時までの流れについてです。今から、非常に多い資料、この資料1から9に基づいて30分弱でお話いただいて、最後の2時間弱でその審議をしていきたいと思います。ただ、非常に多い資料ですし、全体の審議をしていくとフォーカスがずれてきますので、4つぐらいのパートに分けながら審議していきたいと思います。よろしくをお願いします。

では、藤本さん、お願いいたします。

○事務局（藤本） それでは、前回までのご意見を踏まえての修正案に関連する部分で、資料3から8までを続けてご説明させていただきます。

まず、資料3をお願いいたします。第1回、第2回の両部会で出た主な意見と修正内容ということでございます。

1番目、4つの都市像ではなく、市民にわかりやすい1つのフレーズで、何か目指すものをつくるべきではないかというご意見が出ました。3つにしたほうがいいのか、いろいろなご意見も出ましたが、4つが整っていて、いいというご意見もあつたりいたしましたので、後ほど中身をご説明しますが、4つの都市像をベースに、その上にフレーズを1つつくったらどうかということで、今4つほど、ご意見をいただいたものをもとに挙げているところでございます。

2番目、子どもに対するメッセージですとか教育についての記述が少ないというご意見が多かったので、それぞれの場所に追加しております。

また3番目、特に生活の質のほうですが、地域コミュニティという視点や記述が足りないというご意見が多かったので、それぞれ基本構想、戦略、各論などに追加しております。

4番目、基本計画策定の趣旨についてはいろいろと記述の内容の見直しのご意見をい

ただきましたので、全体的に見直しております。

5番目、人口構造の変化や高齢化の進展などについて、もっときっちりと危機感を持って書くようにということでしたので、追加しております。

6番目、福岡市の広域的な役割や大都市としての役割を少し整理すべきということでしたので、広域的な役割や都市経営の基本戦略などに記述を追加しております。

7番目、人材の視点が足りないなど、都市経営の基本戦略をしっかりと見直す、もっと書き込むということでしたので、そちらについても記述しております。

8番目、構成についてわかりやすく見直すべきということでしたので、総合計画の体系を冒頭に移し、現状と課題をカテゴリーごとに整理して、広域的な役割についても少し整理しました。あと、目標の6と7を入れかえたほうが良いというご意見が多かったので、入れかえをしております。

ということで、中身のご説明に入らせていただきます。資料4をお願いいたします。

まず、めくっていただきまして、ページはございませんが、目次の前の総合計画の体系というところで、この段階で構想、計画の位置づけを示してございます。

1ページ、2ページをお願いいたします。こちらが基本構想でございます。4つの都市像の上にフレーズということで、枠だけ置かせていただいております。先ほどの案で出させていただいたものを1つ入れるというイメージでございます。

そして、1番の「自律した市民が支え合い」については、ほかのところは最初に福岡市の現状はこうだという記述を入れておりましたので、それに合わせた記述にしました。また、コミュニティが大事だというご意見をたくさんいただきましたので、その記述も最初のところに追加しております。あと、都市の美しさ、子ども、子育てしやすいまち、そういったところについてしっかり書くようにというご意見が多かったので、そのあたりを追加してございます。

次に、3ページ、4ページをお願いいたします。3ページ、策定の趣旨のところについては少し整理されていなかったもので、いろいろなご意見を踏まえて整理しております。

1つ目はそのままございまして、福岡市は住みやすい都市という評価を得ているというものです。

2番目については、世界規模の話で、温暖化や人口の増加に伴う水の危機など、世界規模の問題が確実に進行しています、また国においても代替拠点のあり方などが検討されて国の形が大きく変わろうとしています、という全体の話です。また、少子高齢化や人口構造の変化は確実に進行していき、これを今までの延長線上の考え方で維持するのは難しいということで、ライフスタイルや価値観を転換せざるを得ない時代になっていきます、としております。

一方、経済的な方向で見ると、アジアの急速な発展の中、都市間競争はさらに激しく

なっていますと、しております。前の2つ目、3つ目は確実に進行していく未来ということですが、この4つ目については予測困難な未来ということで、その中で活力を維持し続けるためには、ともに発展するというステージに進むことが求められます、としております。

こういう中で、福岡市はアジアに貢献してともに成長していくということで、人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市を目指して計画を策定します、としております。このフレーズについては、後ほどのページでご説明をさせていただこうと思っています。

次に、5、6ページをお願いいたします。昭和10年ぐらいからまとめて何十年か中身がないということでしたので、雁の巣の国際飛行場、最重要港湾、市民会館の開館といったところを追加しておりまして、それに合わせて左側のページについても記述を追加しているところでございます。

次に、7ページからをお願いいたします。ここからが現状と課題でございます。前回は、現状と課題、それから人口と経済と、フレームを別々書いておりましたが、どうしても人口のところの記述などが重なりますので、現状ということで福岡市の人口はこうなっていますということと、今後こうなっていくとしました。そして、テーマごとに人口について、福岡を最初に述べ、その後、外部の状況ということで、9ページ、10ページに世界の人口、日本の人口、九州の人口はこうなっています、と並びにしております。

そして11ページでは、高齢化・コミュニティについてはこうなっております、として、12ページで外部の状況、アジアや日本、九州ではこうなっています、としております。

13ページで環境やまちづくりについての福岡市の状況を説明して、14ページで外部の状況としてこのような形になっています、という整理にしています。

福岡市の経済の状況が15、16ページで、17、18ページで外部の状況として世界、日本の状況を書いております。

19ページ、20ページは福岡市の広域的な役割ということで、(3)の①に現状ということで、現在のこども病院や文化施設、また道路や水のところで今果たしている役割をしっかりと書くようにというご指摘がございましたので追加しております。また、福北連携、3都市連携、それから博多港の機能などを追加させていただいています。

そして21ページは、②求められる役割ということで、大都市でなくていいのではというご指摘がございましたが、福岡市の広域的な役割として求められる役割という整理にしております。

こちらについては、都市にいろいろな資源の集中が進み、また国土のあり方についても検討が必要な状況であり、また、アジアではいろいろな都市問題が顕在化している中

で、福岡市に求められる役割も変わってきているということで、日常生活圏において充実、成熟した社会にふさわしい市民生活の場を提供します、としております。九州の中では、多様な都市連携の中で九州全体の成長を促進する機能が求められ、日本の中では、まずアジアに近い位置にあることから日本とアジアをつなぐ役割が求められ、また、福岡市は地方の支部局が集積しているので、いわゆるバックアップ拠点の候補に挙がるなど期待は高まっています、としております。また、アジアにおいては経済発展と質の高い生活のバランスがとれたモデル都市になるという役割が求められ、世界の福岡市と同様の都市圏と同じように、存在感を発揮していくポテンシャルがあります、というまとめ方をしているところでございます。

次、23ページからは都市経営の基本戦略ということでまとめさせていただいております。これについては皆様から大変いろいろなご意見をいただいたので、それをまとめて書かせていただいております。

まず、人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市を目指すとしております。生活の質の向上と都市の成長の循環ということで、住みやすさに磨きをかけ、市民生活の質を高め、人と投資を呼び込み、都市の成長を実現させて、生活の質が高まる好循環をつくる、としております。それに加え、人材が大事だというご意見をたくさんいただきましたので、人材の多様性とその交流から生まれる創造力が必要で、そういった人材育成や活躍する環境づくりをやります、としております。下のほうの図では、もともとあった生活の質の向上と都市の成長の循環の下に人材のことを入れております。そして、少し説明の中身に書いているキーワードみたいなものを横に出しています。

24ページには、①生活の質の向上として、地域コミュニティを大切にしますということを入れてあります。あと景観、教育などを追加しています。そして②として、都市の成長についても、アジアとのネットワークなどを追加しています。また、③で人材の育成と集積ということで、子どもや若者の人材育成、それから大学の機能が大事というお話をたくさんいただいておりますので、魅力ある教育環境をつくりますとしております。また女性や高齢者の活躍ですとか、人材の定着というのを入れてあります。

そして、福岡都市圏が九州・日本を牽引するところには、北九州市や釜山との連携などを追加しているところです。

また、「リーダー都市」ではわかりにくいというご意見が大分ございましたので、人材の多様性による創造力をエンジンとして、生活の質の向上と都市の成長がなされているということで、この姿全体を今回は「創造都市」というくりにいたしました。

あと、「人と環境と都市」の「都市」が、経済活力なのかがわかりにくいというご指摘もございましたので、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市」というような言葉をご提案させていただいております。

次に、25、26ページをお願いいたします。8つの目標の中で、この部会で、順番からいってベーシックな経済活動が先のほうがよいだろうということで、目標6と7を入れかえさせていただいております。それに伴って、4つの都市像と8つの目標ということで、1つの都市像に2つの目標とツリーになっていたんですが、そういう対応ができなくなりましたので、暮らしの質、都市の成長という2つの都市像に対して、おのおの4つの目標があるという構成に変更しているところでございます。

26ページについては、少し表現がわかりにくいということがございましたので、追加しています。

次に、27、28ページ、ここからが計画の各論でございます。こちらについては、生活の部会の簡単なところだけ言います。

⑨の目標で、30ページの施策1－8で若者という話があるのに、こちらの現状と課題に書いていなかったために、ニートや引きこもりの問題などを追加しているところでございます。

あと、27ページの④に文化芸術を追加しております。文化芸術は成長のほうに入っていたんですが、暮らしのほうでも必要だということで、文化芸術を2つに分けて、いわゆる市民の暮らしを豊かにする文化はこちらに入れさせていただいております。それに伴い、29ページの施策1－4に文化の項目を1個追加しているところでございます。

そして、31、32ページは、生活の質の部会において、地域活動の拠点が大事だというご指摘がたくさんございまして、31ページに公民館のことを記述し、32ページに施策2－2を起こしております。

また、こちらでもご指摘があった、いわゆるソーシャルビジネスといった社会的な産業については、2－5に「ソーシャルビジネスなど多様な手法やつながりによる社会課題解決の推進」ということで、ソーシャルビジネスという言葉を入れさせていただいて、また31ページにも、市民がより多様なサービスを受けられる一方で、起業や雇用の創出をするといったことを書かせていただいているところでございます。

33、34ページは安心・安全な生活環境ということですが、この中に住宅に関しての記述が今までちゃんとなかったと生活の質の部会で出ておりましたので、33ページの③に住環境の話を入れて、35ページに施策として良質な住宅・住環境の形成を追加しているところでございます。

37、38、39ページについては、都市景観についての記述が十分でないというご指摘が大分ございましたので、目指す姿ですとか、現状と課題のところを追加をさせていただいております。

41、42ページをお願いいたします。ここからが活力のほうです。磨かれた魅力にさまざまな人が引きつけられていますということで、「セントラルパーク」という言葉が

定義されておらず、わかりにくいということで、「大濠公園・舞鶴公園一体」という言い方しております。

また、九州新幹線の全線開通、天神・博多についてなどの記述を②に入れさせていただいております。

そして、42ページの5-1と5-3は少し表現がわかりにくいということでございましたので、少し言葉を追加し、5-1と5-3の違いをわかりやすくしているところでございます。

次に、45、46ページは、雇用が生まれているというところですが、こちらに障害者の雇用、高齢者の雇用の話を追加しております。あと、地場産業のイノベーションが大事だというご意見もございましたので、追加させていただいております。

47、48ページは、もとは「創造的活動が活発で、新しい価値を」ということだったんですが、人材の大切さ、教育の大切さというところで、たくさんご意見をいただきましたので、目標を「創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を」としております。そして最初のフレーズに、いわゆるスタートアップとして、新しい挑戦をしようとする人が世界中から福岡に集まって、新たな価値を生み出していると入れております。

そして、文化芸術については分けた形でしておりますので、市民文化的なことは外した形にしております。

それから⑤のところ、大学の集積、専門学校集積は大事であるというご意見をいただきましたので、そのあたりを入れております。

また、シニアや、福岡にかかわりを持ったことのある人材の活用を④に入れているところでございます。そして施策7-5で、人材の中に留学生を追加しているところでございます。

それから、もともと起業、創業というのは別建てで、目標の6に起こしていたんですが、この施策7-1の「新たな価値を生むスタートアップ」に統合させていただいているところでございます。

次に、49、50ページは、国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっているということで、国際競争力という中では外国人が暮らしやすいことは大事だというご意見をいただきましたので、そのあたりを⑤に入れております。あと、実際にアジアに貢献していく分野を少し追加しております。

50ページは、空港の乗降客数がなく船のほうだけ書いてございましたので、追加しております。

51ページは、施策8-8として「世界の人暮らしやすいまちづくり」を追加しております。施策8-6は言葉を、「アジアの諸都市への国際貢献の推進」という形に変えさせていただいております。

資料4については以上でございます。

引き続きになりますが、資料5は、今ご説明したものを一覧表にしているもので、後ほどご参照いただければと思います。

資料6は、今まで成果指標についてご審議をいただいたことについて、少しまとめましたので、ご確認をお願いしたいと思って、つくったものです。

まず成果指標は、基本計画に掲げる分野別目標の実現に向けて取り組んでいく施策の成果を把握していくための指標です。基本計画の実施段階においては、達成状況を定期的に把握・評価することで、目標達成に向けた個々の取り組みの見直しなどに生かしていきます。

目標設定の基本的な考え方は、分野別目標の実現に向けて、成果を代表的にあらわす指標を1施策につき1つから3つ程度設定するというものです。全体であまり多くなり過ぎないように100項目程度と考えています。

基本的には、現状値が把握できているデータ系の指標を設定しますが、適当と考えられるものがない場合には意識系指標ということで、「こういうふうになっていると考える市民の割合」といったアンケート調査をかわりに置きます。

また、指標を設定する際には、一定のサイクルで経年変化を測定できるものにします。10年に1回の調査などですと、なかなか実際の成果として使えませんので、短い期間で測定できるものということです。あと、一部の指標のデータ把握のために過度にお金はかけないようにと考えているところです。

次の2ページ目からについては、見方だけご説明いたします。施策番号を一番左に書いておきまして、その施策番号についてそれぞれの成果指標を置いています。成果指標の出典として、どういったところでアンケートしたとか、どういった調査からとっているものを入れております。そして現状値と目標値を置いております。

なぜ今回これをご提案したかということ、実は施策1-2の3で、「一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合」について、市民がどう考えているか聞く調査を、来週の段階で今年度のアンケートとしてさせていただこうと思っておるからです。現状値を把握しないと目標を設定できないものですから、この調査をさせていただきたいと思っておりますが、今、調査しようと思っていること以外で、こういうふうになっている市民の割合もアンケートで聞いたほうが良いというようなものについては、大変申しわけないんですが、今日か、あとファクスの票を置いておりますけれども、近日中にこれも調査するべきだということだけでいただけたらということで、今回まとめて出させていただきました。

次、資料7につきましては、施策検討用の参考資料ということで、以前からお出ししているものを今のものに合わせてバージョンアップしているところでございます。

次に、資料8でございます。空間構成目標ということで前回ご意見をいただきまして、それを反映しておりますので、ご説明をさせていただきます。

2枚目をめくっていただいたら、53ページとなっております。目指す姿のところ、「都心部」「地域の拠点」の下が「市街地」となっていたんですが、生活の部会のほうで、もう少し日常生活を大切にする表現、中身を考えてほしいというご指摘がございましたので、「日常生活圏」という言い方にしました。「日常生活圏は小学校区単位を基本とし、公民館を拠点として、自治協議会を中心に地域コミュニティが形成されている」という状態を書くようにしているところでございます。

それと、その上です。前回、「東部・南部・西部の拠点」としていたんですが、一言で「拠点」だと、ほかとの差別化が出にくいということで、「広域拠点」とさせていただいております。

あと、最後の57ページ、これも生活の質部会から、交通体系の戦略をしっかりと書くよというご意見がございまして、特に市がどこまでやるのかとか、考え方をということでした。これは、生活交通に関する条例がございまして、「市、市民、交通事業者の協力と連携のもとで日常生活を支える交通を確保する」としておりますので、それをここに掲げているところでございます。

長くなりましたが、資料8までの説明は以上でございます。

○星野部会長 ありがとうございます。

資料9は追加ですか。

○事務局（藤本） 資料9については、今回初めて出させていただくものですので、後ほど、ご審議いただく前にご説明させていただこうと思います。

○星野部会長 わかりました。

それでは、今から審議に入るわけですがけれども、これだけご説明いただいたものをまとめてお話しするのはなかなか難しいかと思えますし、見るべき資料はたくさんありますので、先ほど申し上げましたように4つのパートに分けたいと思います。

最初のパートは資料4ですね。福岡市の総合計画の前半の1から26、構想から計画にかけてで、まずお話を区切りたいと思います。パート2が、資料で言うと4と7まで入る、特に27から51までの分野別の目標とします。そして、パート3が資料8にあります空間構想ですね。一番最後に、今、藤本課長からお話しいただきましたけれども、今日初めてご紹介いただく区別の目標がありますので、パート4ではそれのご説明をいただいて、その後、審議に入りたいと思います。

それでは、まず資料4をごらんください。最初です。

ここでは、1ページから20ページ目についてお話ししたいと思います。資料3に大きな修正点が挙げられています。そして小さな修正については、資料4の文中に下線で書き込まれていますけれども、その中で、皆さんから、この4つの都市像をもう少しわかりやすく、目指す方向を出すべきではないかというご意見をいただきました。これはもう一つの部会、生活の質の部会ではあまり出ていなかったようですけれども、こちらでこういった意見がありましたので、それを生活の質の部会でも諮っていたところ、ご了承いただきましたので、1つ何か目指す形をつくりたいということになりました。

この内容をどうするかは事務局のほうでご検討いただいて、4つの案が出ています。しかし、今この4つのフレーズ案の中から選ぶものではなくて、この4つの都市像の要素だけを抽出して、文言を合わせて1つのフレーズをつくってもあまり意味のないことです。また、別の視点から、ここで目指しているものが出てこないかと事務局に考えていただこうと思ったときに、委員がお話しいただいた「住みやすい、行きたい、働きたい福岡」という言い方がわかりやすいのではないかとということで、このフレーズ案の中に入れていただいています。これについては事務局にご検討いただきますので、今日ここで特に審議するつもりはないですけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 もう一つ大きなところは、目標の6と7が同じ産業の話をしていて重複しているのではないかというお話がありまして、これについては6と7を入れかえていただいたことです。6のほうで大きく経済ととらえて、九州の経済をどうしていくのか、特に7のほうで、その中で特定の産業についてどう伸ばしていくのかということで、少し似通っていた部分を、経済全般とフォーカスを当てるべき産業と、仕分けの整理をしていただいたので、わかりやすくなったのではないかと思います。

大きな枠組みの変化というのはこういったところですが、それでは資料4に基づいて、1ページから26ページについてご意見を、どこからでも結構です、いただければと思います。いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 20ページ、「福岡市を中心とした1,000キロ圏内とその周辺都市」と書いているんですが、福岡市、その下に福岡都市圏、九州と書いていますけれども、東京も二千万人ということで、メトロの感覚で、ソウルも千五、六百か七百か知りませんが、そういう感覚も下に書いたほうがいいと思います。ソウル特別市とか、東京都の人口でこれが関係があるんだとか、ターゲットにできるんだとかいうことで、都市圏で考えたほうがいいかなと思うんですけれども、どうでしょうか。

○星野部会長 ありがとうございます。確かに、この福岡市の構想の中でも、福岡の広域圏の中での都市という言い方が今回使われていますけれども、海外では特に広域都市としての考え方が多いようですし、ぜひそうしていただいたほうがいいですね。

はい、お願いします。

○委員 21ページ目でよろしいですか。

○星野部会長 はい、いいです。お願いします。

○委員 前回の部会で欠席したものですから。その前のときにも、このページに関連したところで、「アジアの中の大都市」となっていたので、それはいかがなものかと申し上げました。「求められる役割」ということで、ここがまとめのページになったと思うんですけども、ちょっとまだ求められる役割が果たして幾つあるのかという整理が、この文章を読んでいる限りよくわからないんですよ。

細かい話で申しわけないんですけども、最初の丸は背景を言っていて、2番目の丸は「求められる」、3番目も「求められる」、4番目も「求められる」ですけども、5番目の丸が「期待が高まりつつある」と、また背景に戻っている感じがするんです。最後の丸も「十分なポテンシャルがあります」ということで、求められる役割になっていないと思います。このあたりの整理の仕方の趣旨がよくわからなくて、このページの意味がよくわからないんですけども、どういうふうにこの後のページに続いてくるのでしょうか。

○事務局（藤本） ここは、①の現状と求められる役割ということで、おっしゃるように広域的な役割を整理させていただいております。先生がおっしゃったように、最初が背景で、また、バックアップのところは、その前のポツとは別で、「役割を求められている」とまで言えるかどうかというところがあって、このような書き方になってしまっています。最後のポツについても、はっきり「求められる役割」とまでは言いにくいけれども、そうなりつつあるということです。はっきりと「役割を求められています」までは言えないのかなということでした。

もし「こういう役割が求められています」と言っているということであれば、それでもいいかなと思っております。あと、求められる役割を踏まえて各論に入っていくということですので、どこかが一対一になっているということではないんですけども、役割を整理しているのかなと考えております。

○委員 あと、この後のページにどう続いていくかも、そのつながりがよくわからないので、そこも意識していただいたほうがいいかなと思うんです。今のお話を聞くと、要するに広域で見たときに求められる役割のページですよね。ただ、「広域」という言葉の意味も非常に幅広くて、そこを一回整理していただく必要があるかなと思うんですよね。例えば広域と言っても、九州という広域もありますし、日本の国土全体という広域もあります。九州の中での位置づけ・求められる役割と、日本の国土全体の国土計画の中で求められる役割もあります。後者はおそらく首都機能のバックアップとかいう話になってくると思うんですけれども。それからアジアの中での役割ですかね。そういう「広域」という概念をスケール別に整理していただいて、それぞれがそれぞれのパラグラフに対応しているとしたほうがいいと思います。ですから、見出しをつけていただいたほうがわかりやすくなるかもしれません。あと、最後は、市長さんが標榜されている「アジアのリーダー都市」という概念定義をこの中でまたまとめとしてやっていただくのが一番わかりやすいかなという気がします。

○星野部会長 今、非常にわかりやすいまとめ方をお話いただきました。確かにこれを見てみると、前提と求められる役割が混在しています。箇条書きのように使っているにもかかわらず、「まず」「また」「さらに」という言い方をされていて余計わかりにくくなっていると思います。求められる役割であれば、求められる役割として何なのかということをもっと明確にする必要があります。そのまとめ方として、今、先生のほうから、スケール別というお話をいただきました。都市として、広域な中で、あるいは九州の中だと、スケール別に求められる役割をまとめていけば、随分整理がつくだろうということをございます。ありがとうございます。

○委員 同じページで、細かいところですが、一番最後のところがちょっとよくわかりません。「周辺の諸都市との連携の中で」という「諸都市」とはどこを指しているんですか。アジアの諸都市を指しているんですか、それとも福岡都市圏の中の諸自治体を指しているんですか。

○事務局（藤本） はい、福岡都市圏というような。

○委員 「諸都市」と言うとはよくわからないんですけれども、周辺の自治体を指しているわけですね。周辺自治体と連携するという意味合いにとらえてよろしいわけですか。

○事務局（藤本） はい。

○委員 ちょっとその辺も、「連携の中で」というのがよくわからなかったものですから。
はい、結構です。

○星野部会長 ありがとうございます。

そうやってきたときに求められる役割とは何かということが、非常にわかりやすくなりますよね。

ほかにいかがでしょうか。

○安浦会長 今の先生のご意見の中で最後におっしゃいました「アジアのリーダー都市」というのは、実は総合調整委員会であえて外させていただいております。ですから、例えば23ページの箱の中に書いてありますように、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市」という書き方にして、今の市長のおっしゃっている、気持ちはかなり尊重したつもりですが、そのフレーズをそのまま使うことは避けております。

○星野部会長 もしそうであれば、「アジアのリーダー都市」という言葉ではなくても、その解釈として考えられている、アジアにおいて、そのモデルを提示する役割を書くことは、いかがでしょうか。

○安浦会長 もちろん、そういう形で書いていただくのはいいと思いますけれども、部会長、副部会長とお話する中で、今の市長が政治家としておっしゃっている言葉をそのままこの答申の中で使うのは、この10年間の中で、今後の選挙もありますし、いろいろ出てくるであろうということで少し違った表現にさせてもらっております。

ですから、「創造都市」をもう少しきちんと定義し直す、あるいは言葉を変えるといったことは、ここで議論させていただいて構わないと思います。

○委員 今の安浦会長のおっしゃるのは、要するに23ページの目標の言葉ですよ、「アジアの創造都市」という。それが21ページから23ページにうまくつながっていけば、よろしいと思います。別に「リーダー都市」という言葉は私の言葉でもありませんし、こだわるわけでは全くありませんので。

今、安浦先生にまとめていただいたように、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市」が、最後、21ページのまとめのところに頭出しされていて、23ページまでつながっていけば、非常にわかりやすくなるかなという気がします。

○星野部会長 はい、光山部長。

○事務局（光山） 生活の質の部会の3回目で、この前半戦での議論の中で、計画の前提のところですね、いわゆる5ページから18ページぐらいまでは参考資料などに少し回したほうがいいのではないかとのご意見をいただいています。前半の策定の趣旨から先ほどの都市経営の基本戦略ぐらいのところまでが非常に離れていまして、ずっと歴史とかを聞いていくという話もあって、ここは非常に大事なところではあるけれども、少し後ろのほうとか参考資料に回したらどうかというご意見です。

ちよっとご議論の参考にとお思いまして。

○星野部会長 前提と背景説明ばかりで議論に入らない会議みたいなもので、何となく、これを見ていると、その歴史とか背景説明があまりにも長いのではないかと、もう一つの部会からご意見があったようなんです。つまり、もう少しこちらで目指す役割といった本質論に入るべきではないかというご意見のようですけども、これについてどんなふうにお考えになりますでしょうか。

委員、お願いします。

○委員 私も生活の質の部会と全く一緒の意見です。わかりきった基本計画の前提から求められる役割のところまでをスパッと外してしまっていて、後ろに行って、都市経営の基本戦略を持ってきた方が見る人にとってわかりやすくいいと思います。万が一入れる場合は、少なくとも年表、グラフとかは添付資料でいいのではないかと思います。

もう一点、今のことと関連性はないのですが、これは実施計画の中になるのだと思いますが、星野部会長から、3つの視点で物事を考えたいとの話がありました。その時に何が福岡で足りないのか、一番足りないものは何かというものが入っていません。

足りないものが何かといったときに、まず人もいます、若者もおります、留学生もいます。特に住みやすさにおいては最高ですと、住みやすさについてはみんなある程度わかっていますが、働く場所がないのです。だから、大学生も留学生も関東・関西に行ってしまう。そうしたときに、何か働く場所をどうしたらよいか計画に入れなくていいのかなと思っています。クリエイティブなもの、要するに新産業をどうするのか、それと既存の産業をどうやっていくかの2つがあると思います。

これは今日の議論とは別の話になると思うのですが、やはりクリエイティブな産業を福岡に根づかせるには、何が一番いいのでしょうか。この前、委員から「我々としては、人と電気とパソコンがあればどこでもいいんです」ということでした。「福岡がいいん

だ」ということをどう入れるのか、福岡にそういう企業が来るためにはどうしたらいいのでしょうか。まずはインセンティブ、要するに進出するにあたっての交付金、税の優遇、事業所・住居のインキュベーション施設ですか。例えばアイランドシティにしても、今度かなり買いやすくなりましたよね。まずはそうした仕組み、それと、何かの記事に、「シンガポールの役人は、誘致した企業のトップと同じくらいの報酬をもらう」と出ていました。それぐらいのプロモーター、引っ張る役割を持つ人に対するインセンティブ。来る人に対するインセンティブもそうだし、引っ張ってくる人のインセンティブもだと思えます。

もう一つは、福岡の良さ・住みやすさをまずは国内に、そして世界にどうPRするかと思います。住むところが安いですよ、東京の家だったらこっちで2軒持てますよ。東京じゃ家を持ってない人も福岡では家が構えられますよ。住居は職場に近く、2,000円払えばタクシーで帰れますよ。私は昔最初の住居はタクシーで1万数千円かかり、都心に住居を移すと家賃は30万、60万しました。住居環境がよく、災害の少ないということをどうPRしていけば、新しいクリエイティブな産業がくるのでしょうか。

それと、今の産業で何が足りないのかと見たとき、やはり商流機能が足りません。それはソフトの部分、ハードの部分の両面があります。ハードの部分は空港のインフラであり、港湾のインフラであり、市内の都市交通（地下鉄）であり、そういうインフラ整備が足りない。そこをどうするかです。ソフトの部分でいうと、グローバル人材の取り組みと育成です。この中で欠けていると思えるのはシニアの部分ですね。50代から60代の東京・関東・関西で、海外勤務をした大手商社・メーカー含めて国際ビジネスの第一線に関わった人をどう引っ張ってくるのか、どう集めるのかの視点が足りないんじゃないかと思います。福岡をベースにして海外に出す若者をどう育てるかの視点もちょっと入れてはどうかと思います。

ちょっと長くなり、申しわけございません。

○星野部会長 ありがとうございます。おそらく、今、委員からお話いただいたことは、後ほど目標7の中の、もっと専門性のある人材を集めることも含めて、具体的に入れたほうがいいと思うんですね。これがちょっと足りないように思いますし、足りない部分をもう少し具体的にどう補っていくのかについて、ぜひ後半でお話を進められればと思います。

あと、今また人材のお話をいただきましたし、池内副部会長はいつも多様な人材というところを言われるんですけども、例えば24ページ、せっかく目標7では「多様な人材」という言葉が入ったにもかかわらず、この「人材の育成と集積」の中で、単に教育、育てるだけで終わっているのがすごくもったいないなと思います。例えばこの教育機関

というのも、わざわざ「高等教育機関の集積」とされていますけれども、以前からの議論の中で出てきた専門学校も含めて、新しい産業の担い手になるかもしれない人たちもいるわけで、もっと人材のところを厚くする必要があるのかなと思います。

ちょっと補足していただけますか。

○池内副部長 いや、今ので大丈夫です。

○星野部長 よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。もしなければ、この後、今お話しいただいたような目標に入って行って、目標の中で具体的なものを入れていただきたいと思います。

はい、どうぞ。お願いします。

○委員 いただいた資料をずっと読んでみると、21ページの「求められる役割」の5項目めに「福岡市は各省庁の地方支分部局が集積していることから、バックアップ拠点の候補に挙がるなど、国内における福岡市への期待が高まりつつある」と書いてあります。これ自体まあ仕方ないのかなと思う部分もあるんですけども、地域主権戦略会議の中で、特定広域連合を形成して、国の出先機関を一極集中させる形に持っていきたいということですが、実際には、省庁の抵抗や、特定の政党名を出していいのかどうか分からないけど、民主党内の身内からの反発によって骨抜きになっているとかいう話を聞いて、結局、「福岡市への期待が高まりつつある」というものの、代替拠点としてだけの福岡市であっていいのかなという疑問があります。実際、求められる役割として、特定広域連合というか広域行政機構というか、九州広域行政機構とかいう仮称になっているらしいけれども、単にその場所が福岡市にあるというだけで何なの？ という気がしているんですよ。だから、福岡市に置くメリットだとか、実際に行政機構の役割が福岡市にもものすごくメリットがあるとか、九州にとってプラスになったりとか、そういったことが求められる役割であって、単に福岡市がその拠点の候補地というだけが、または、それが来ることだけが、求められている役割という理解をするのであれば、こんな文章は要らないじゃないかと思います。ちょっとうまい言葉で言えないんですが。それを当局側はどう考えてあるのか、質問したいなと思ってはいたんですけども。

○星野部長 ご説明いただきたいんですけども、先ほど先生が、この中には前提と求められる役割があると仕分けされましたが、この部分全体なんですよね。ですから、こう言われているということで、別にこういう役割を担っていくとは書かれていないんですけども。光山部長、お願いします。

○事務局（光山） 今確かに、地方分権の大きな流れで、国の出先機関等を地方に、財源を含めて権限をどうおろしていくかという議論の中で、国の出先機関の受け皿としての広域連合というものがあるのは承知しております。ここで少し書かせていただいていますバックアップという話は、震災を受けて、東京の中核機能が災害時でも日本全体をコントロールできるようにするにはどうするかで、これは別の防災会議の中で行われております。特に福岡の特性として、一定規模の都市として太平洋側ではなく日本海側にあるということで、同時被災の可能性が少ないことがあります。また、一定、中央省庁等の地方出先機関も集まっているし、都市機能も集まっています。そういうことで、災害時の東京圏機能のバックアップとして、福岡は地理的にも都市機能的にも最適ではないかと、今いろいろなところにお話をさせていただいているところでございます。ですから、今おっしゃったような観点も、福岡の担う役割として必要であれば、書き加えていくこともご検討いただければとは思っております。

○星野部会長 今言われたことは、前提ではなく、求められる役割として書かれることなのではないでしょうか。これを見てみると、「候補に挙がるなど、期待が高まりつつあります」と、それは人が言っているだけなんだという前提です。つまりそういう候補になるべく努力をするということなのではないでしょうか。

○事務局（光山） まさに今、国のほうでご議論いただいているところです。せんだって国の防災関係の会議の中で、日本全国で、バックアップ機能を担えるような都市として5都市、札幌から挙げていただいている中に、福岡も候補地として挙げていただいています。我々としては、そういうバックアップ機能を担えるような都市として十分機能を備えています、地理的要件も備えていますと、どっちかという、その背景の部分に近いと思いますが、そういう候補都市としても最終的には選んでいただきたいなと思っているところもあって、こういう非常にあいまいな表現になっています。

○星野部会長 よろしいでしょうか。

○委員 よくわかったようで、わからんようなところですけども、単にそれがここにあるというだけではなくて、存在意義みたいなものを示しきらんといかんと思うんですよ。今は県主導で行われていて、この前、高島市長、熊本市の幸山市長、北九州市の北橋市長が三者会談したときにも、結局、政令市は仲間に入れてもらえないじゃないかという流れだったじゃないですか。政令市が入って、基礎自治体が優先の原則に基づいて、

実際それが行われていかないかというような議論をやっておられたということを考えれば、福岡市の総合計画を立てるときに、結局そういったことも含めて、将来の道州制であるとか、都市圏とかも含めて広域化をしていく中では、頭の中にきちんと整理しておかないといけない部分なのかなと思う部分もあります。だから、単にそれがここにあるとかいうだけではなく、あることに意味を持たせることを将来的に考えていってほしいなと思います。まあ、ここはこれでいい、いいといいますか、ほんとうはよくないのかもしれないけど許すとしても、何か将来的にそういったことをもっと入れてほしいなと思っています。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。

今ご指摘いただいた点で、次回までにこれをほんとうに求められる役割の一つとして入れるのかどうかをご検討いただいて、改めてご提案をいただけますか。あいまいなままで残すべきではないと思いますし、ご指摘もいただいたところなので、ぜひお願いいたします。

それでは、よろしければ、具体的な目標として27ページ以降に入りたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。何かここで。はい、委員、お願いします。

○委員 23ページの「創造都市」でございますけれども、先ほどもご意見がありました、ちょっとぼやっとしてわかりにくいので、「創造都市」の定義をもうちょっと書いていただくか、何を創造するのかわかるようなタイトルのほうがいいと思います。創造力を持った人材がいる都市なのか、新たな価値を創造する都市なのか、何かわかりにくいです。例えば「価値創造都市」「未来創造都市」など、もうちょっとクリアに書いていただければありがたいと思います。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。おそらく、このような言葉がもう少し解釈されて、先ほど委員が言われた、求められる役割として「アジアのリーダー都市」を使わないとしても、求められる役割の下に来るといいのかもしれないですね。これはまたご検討いただけます。お願いします。

それでは、パート2として次に分野別の目標に行きたいと思います。資料は、このお手元の4、5、6、7まで入るんですけども、特に4の27ページの目標から51ページを中心に、お話をいただきたいと思います。

多分これも、それぞれ前と後ろを見ながらというフォーカスがぶれてきますので、

まずは生活の質部会が担当されている目標1から4の間ぐらいで、何かご指摘いただくところはおありでしょうか。はい、お願いいたします。

○委員 非常に細かい話なんですけれども、29ページの施策1－4です。「過去1年間に文化芸術を鑑賞していない市民の割合」「文化芸術活動に参加していない市民の割合」というのは、ちょっとネガティブな表現なので、ポジティブな表現のほうがいいのかなと私は思います。例えば「文化芸術を年1回以上鑑賞している市民の割合」といった表現にされたほうがよろしいかなと思います。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。委員、お願いします。

○委員 37ページと38ページの目標4のところ、施策4－2に「公共交通を主軸とした総合交通体系の構築」とありまして、指標項目の「1日当たりの鉄道・バス乗車人員」が8.5万人ぐらい増えるとなっているんですけれども、これは、福岡市内の公共交通の人員ですか、それとも都市圏全体を入れてのものですか。

おそらく周辺の自治体は、将来的にどんどん高齢化してくるんですよ。既に始まっていると思うんですけれども。私は天神のまちづくり、We Love天神協議会で、天神の交通の分析をしたことがあるんですけれども、2025年ぐらいにはおそらく、天神に集中する交通量は減少するんです。これは要するに周辺の自治体から天神に通勤している人たちが高齢化して、通勤人口が減ってくるので減少してくるということだと思えます。ですから、この中の人員が増えていく根拠みたいなものがよくわからなかったものから、その辺をできたら補足していただいたほうがいいかなというのが一つです。

あと、その次に「便利だと感じる市民の割合」とあるんですけれども、これも非常に難しいです。まあ、難しいからやれないということはないと思うんですけれども、「便利だと感じる」という、その「便利」の中身がある程度ここで定義しておいたほうがよろしいのではないかなと思います。要するに、料金体系の上で便利だと感じるのか、乗りかえがスムーズにいくから便利だと感じるのか、本数が増えるのか、あるいは定時性をもっと向上するのか、その辺があいまいなままアンケートをとっても、それほど功を奏しないような気がします。細かい話で申しわけないんですけれども、細かい評価項目の基準と内容をここでも定義し、そういう条件をつけてきちんと調査していただいたほうがよろしいのではないかなという気がするんです。

それから、最後の施策4－5ですけれども、「コンパクトな都市づくり」って非常にいい言葉で、どこでも使われるんですが、ここにも「住みよい地域だと感じる市民の割

合」とあるんですよ。さかのぼって、14ページの上のグラフがそれに該当すると思うんですが、これは90%前後を行ったり来たりしているんですよ。たしか私の記憶だと、福岡県のほかの自治体も同じぐらいの割合だったと思うんですよ。大体これは、どこのまちで調査しても、住めば都で、かなりの人はいいと思っているんですよ。だから、これを調査する意味はどこにあるのかをもうちょっと詰めていただかないと、この14ページの上のグラフもどう読んでいいのかわからないんですよ。

「コンパクト」に関して言うと、私は東京に移って今つくづく感じるんですが、やはり可処分時間が多いのが一つの指標ではないかと思うんですよ。東京にいと、ゴルフに行ったりするにも朝4時ぐらいに起きて、3時間ぐらいかけて行かなくちゃいけなくて、レクリエーションの機会も非常に限られてくるんですよ。福岡にいと、30分ぐらい行けば温泉もあり、いろいろなレクリエーションの機会がありということで、平均通勤時間も東京なんかには比べれば非常に短いので、コンパクトということの評価する指標は、お金に換算するというのもあるんですけども、私は時間ではないかなという気がしています。

だから、「住みよい地域だと感じる市民の割合」は非常に簡単に調査できる話なんですけれども、実はあまり意味をなさないような気がしていて、特にコンパクトな都市づくりという目標とは直接結びつかないと思うので、ここはもう一度きちんと詰めていただく必要があるのではないのでしょうか。すみません、もう一つの部会のお仕事だと思うんですけども、ちょっと気になったので。

○星野部会長 ありがとうございます。

もう一つの部会もそうですけれども、この資料6で「成果指標について」という項目を挙げていただいているんですが、これも今日の審議の内容になりますので、こういう指標の立て方がどうかを今のようにご指摘いただくことも非常に重要だと思うんです。

それこそ、操作的定義と言いますけれども、自分の思いを具体的な項目で考えればどうなるのかを明確にしないと、あいまいなままで1票入ることにもなりかねません。それを具体的にどう考えていくかを指標の中で入れていかないと、意味がないかと思えますね。この指標も含めてお話をいただきたいと思えます。指標は次のところで聞きたいと思えますけれども。

生活の質部会の1と4の目標の中で、ほかにつけ加えていただくことは、はい、安浦会長。

○安浦会長 今、先生にご指摘いただいた目標4は、実はこちらの成長の部会のテーマでもあるんですよ。要するに、今までの価値観と違うまちづくりをすること自身が新し

い価値の創造であり、ある意味でそれが新しい都市の成長の源泉になるということで、先ほど言われました「コンパクトなまち」「スマートシティ」といったキーワードというのは、それ自身が一つの産業のベースになってしまう意味を持っています。この目標4というのは、実は生活の部会のほうのテーマでありながら、うちの目標7と非常に密接に絡んでいるポイントであることは意識して、文章的には構築していいのではないかと思います。

○星野部会長 それでは、都市の成長部会が担当しています目標5から8に向けて入っていきたく思いますけれども、特にこの目標と区別することなく、ご指摘いただくことはないでしょうか。はい、お願いします。

○委員 42ページ、施策5-4の「交流がビジネスを生むMICE拠点の形成」というところです。国際コンベンション開催件数だけがMICEではないし、むしろ国内のほうが多いですし、学会もございますよね。国際で今全国2位になったとか言っておられますけれども、それはたまたまでと言ったら悪いけれども。だから、そういうMICEの意味で、普通のコンベンションとかミーティングビジネス、インセンティブビジネスとかの件数も出ると思うので、入れたほうがいいと思います。

もう一点、簡単に言いますが、50ページの文言の中で、施策8-4ですけれども、「成長を牽引する物流・人流のゲートウェイ」ということで、先に物流が来ているので重要なんですけれども、博多港の国際海上コンテナ取扱個数を一番に挙げたほうがいかなと思ったんです。一応、小さなことですが。

○星野部会長 今ご指摘を2点いただきましたけれども、わざわざ41ページに「MICEとは」という定義を書いているながら、切り出したところは国際だけですので、確かに全体のMICEとして入れていただいたほうがよさそうです。また、50ページは、物流・人流という書き方をしているのであれば、その順番かと思います。

それと、今ご指摘いただいたところで、50ページの指標について、どういったものかなと思ったことがあります。資料6で、先ほど藤本課長から、成果指標には経年変化が測定できるものを設定しますというお話をいただいたんですけれども、多分ここで設定すると、2011年が基準年になってくるということです。2011年って、考えてみると、非常に日本にとって変動が大きかったんです。大震災の年ですし、いろいろなコンベンションの件数が下がった、海外からのインバウンドのお客さんが減った、貨物が減ったという、その年を基準年にする、もちろん目標を設定したら、みんな上がっていくので、いい結果にはなるんですけれども、2011年を設定として適切なのかと考えると、どうい

うやり方が考えられるんでしょう。藤本課長、いかがでしょう。

○事務局（藤本） 直近の値が特殊な場合とか、経年の変動がすごく激しいものとかありますので、明らかにここだけ特殊な数字というのであれば、そこは外して、その前の年という形でもいいですし、あと非常に変動が激しいものであれば、直近の3年間平均と、将来、10年後の3年間平均といったものにするとか、そういった設定の仕方は個別に考えられるかなと思います。

○星野部会長 はい、ありがとうございます。ぜひご検討ください。

○委員 45ページの目標6の目指す姿の表現のところなのですが、2つ目の丸で「新分野への進出や販路拡大などにより、地場中小企業の競争力が高まっています」とあります。イノベーションを促進するという意味では、先ほどの「価値創造都市」という言葉にもつながる話なので、重要なところだと思いますが、新分野への進出や販路拡大などと競争力が高まることが単純には直結しません。販路拡大したから競争力が高まるというわけではないです。ここで前に来る言葉としては、例えば「イノベーションが活発で」、「特徴ある製品やサービスが生み出されていて」など、それによって競争力が高まっているというような、イノベーションにつながる表現がいいのではないかと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。そのとおりですね。これは実際に外に出たときに、いろいろな方が読まれるので、こういう審議をしていると、その間を抜かしたとしても理解されるようなことでも、きちんとその道筋がついていないとわかりづらいかと思うんです。今、非常に貴重なポイントをいただきました。同じようなことを、ほかのところでも少し感じる場所がありましたので、そのあたりも見直していただきたいと思います。

ほかに、特に先ほど委員のご指摘になられた目標7が大きいかと思うんですけれども、具体的にこのあたりが足りないから、もっとこのあたりを具体的な施策をもって伸ばしていかなければいけないということを、もう少し目標7で書けないかというふうにあるんですけれども、いかがでしょう。何か、こんな視点を入れたらというようなご提案があったら、ぜひいただきたいと思います。はい、お願いいたします。

○委員 目標7になるか6になるかわからないんですが、目標6のほうでもよろしいですか。

○星野部会長 はい、もちろん結構です。

○委員 目指す姿の最初の丸のところ、「多くの国内外企業の立地が進み、働く場が充実しています」とあるんですが、結局、国内外の立地の場所として、今いろいろ懸案事項になっているものがありますよね。アイランドシティもそうですし、あと箱崎の九州大学が移転した後の跡地あたりに企業立地が進んでいくというのが、これから10年先の懸案事項だと思うんです。

昨年、アイランドシティに関しては未来フォーラムで、今日もいらしている委員と一緒に議論させていただいたんですけども、公共が民間に「どうぞ来てください」と言っても来ないんですよ。やはり民間に来てくださいと言う前に、ある程度公共が先行投資してインフラ整備するなり、環境を整えていかないと企業立地はされないということが、その場で再確認されたんですね。

その一つは交通手段ですね。そこへ行く利便性を高めることが、やはり圧倒的に不足していますということでした。アイランドシティに関しては鉄軌道を入れると言われていたんですけども、なかなか入りにくいので、おそらくバスで充実させるでしょうというようなことをそこで議論したんですけども、実はその後もなかなかそれが動いていないような現状もあります。

あと、箱崎の九州大学の跡地についても、今、私が委員長をさせていただいて議論しているんですけども、あそこも都市間の競争からいくと、実は交通の利便性が高いようできて、それほどでもないんですよ。実際に交通結節点として位置づけられるべきところが、きちんと位置づけられていません。西鉄宮地岳線と地下鉄との間の乗り継ぎの問題とか、長い間懸案事項になっているのに、なかなか整備されていかないということで、あの辺の北側の土地のポテンシャルがなかなか上がっていないという問題があります。

それから、むしろ今まで企業誘致をするべきところで、なぜそれが進んでいないのかという分析を、ほんとうはこの現状と課題のところでもしていただいて、それを解決するための方策みたいなものがきちんとこの指標にも反映されてこないといけないのではないのでしょうか。その辺がまだちょっと不足している印象があります、現場に近いところを見ている感じではですね。そこが45ページと47ページとで乖離している気がしますので、もっときちんと現状分析をしていただいて、企業を誘致するということは、将来、税収を上げるということで、むしろその上がる税収を原資と考え、市のほうがどれだけ先行投資をしていけるのが勝負だと私は思います。しかし、その辺の認識に立った現状分析とか課題分析になっていないような気がしてなりません、いかがでしょうか。

○星野部会長 ありがとうございます。実際、この右側で指標にも立っていないところを、具体的に測定しながらどう伸ばしていくかがないということもあろうかと思うんですけども、事務局のほうからいかがでしょう。

○事務局（藤本） 目標6に一般的な企業の立地を入れておきまして、特定の場所への立地については目標8ということで、8-2の活力創造拠点づくりにアイランドシティを入れております。

それで、実際に企業を誘致しますというのは、こういった個別の目標で掲げて、そしてアイランドシティにある程度集積させるといったことについては、それぞれの地域の従業者数というような形で今は設定しております。ただ、先生ご指摘のとおり、今実際にうまくいっていない課題の整理とかが少し十分でないところはあるかと思っておりますので、そこは少し整理を追加でさせていただきたいと思っております。

○星野部会長 お願いします。

○委員 49ページの目標8の⑤に「外国人やその家族にとって暮らしやすいまちであることが重要である」と書いているんですけども、今、外国人とか留学生について書いてある限りでは、日本での環境とか、そういうことを緩和しようとしてされています。外国人が日本にいられるような条件を緩和すべきではないかと思えますね。せっかく日本に来ているんですから、日本に続けていられるように条件を緩和されたら、もっと福岡がアジアの玄関窓口として認識されるのではないかと思います。もしそういう方向の内容が入れられたら、外国人から見ると、福岡は行きやすい、しやすいイメージになるのではないかと思います。

○星野部会長 これは委員から前回もご指摘いただいた、貴重なポイントだと思うんです。国のレベルで特区構想でもない限り、なかなかできないことではあるかもしれないんですけども、福岡としてどういう環境が整えられるかということを検討いただいて、何か記述いただける余地は、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） 先生がおっしゃったとおり、国のほうの判断でこうしますというところはなかなか書きにくいんですが、実際、今そういったところが課題になっていることについては当然認識していますので、そこは何らか、課題認識というようなことで記述できないか、検討させていただこうと思っております。

○星野部会長 ぜひお願いします。

○委員 今、外国人の話が出ましたので、私なりに、もう皆さんがわかっていることを紙に落としてみたんですね。外国人が住みやすいまちというのは、どういうまちなんだろうか、特に福岡においてはどうなんだとかと考えると、外国人が多く住んで、日常会話でも「ニーハオ」「ウォーアイニー」と聞けたり、英語がをそこいらじゅうで耳にするまちだろうと思います。そうなったときに、まず一番に、今、委員からありましたけれども、そういう国の仕組みの中で滞在の問題、まあビザのこともあるでしょうけれども、まず外国人の福岡市、福岡県への採用というのは実質的には門戸は開かれているんですか。

○事務局（藤本） 公務員の採用の関係で、いわゆる意思決定にかかわるところでは採用できないとかいうことはありますけれども、ただ、実際に嘱託の職員という形で、外国人の方を採用させていただいているので、何でもオーケーではないんですが、いわゆる職員という形では参加いただいているところであります。

○委員 今の皆さんと同じような形ではできないということですね。

○事務局（藤本） はい。

○委員 それができないかなというのがまず一番に思ったことでした。また、私が海外に行ってもそうなんですけれども、福岡は外国人の医師と看護師が日本で一番多いので、安心して暮らせる、病気になってもすぐ行けるということが一番だろうと思います。

それと、家族を連れてきたときに、今のレベルじゃなくて、もう少しレベルアップしたインターナショナルスクールが整備されなければいけないんだろうなと思います。

それと、外国人向けの住まいのワンストップサービスです。私も友人からいろいろ聞くんですけども、外国人はちょっと大丈夫ですか、できれば断ってほしいという人が多いです。住まいに対するサービス、家具つき住居をどう整備するのかということがあります。

また、これは日本人サイドの問題ですけども、小中学校の語学の充実、まちの中の多言語の表示、情報発信がスマートフォンなんかでもっとできるようになる、それと先ほど先生が言われましたけれども、外国人が住むには、都心部の交通インフラが最も進んでいることが僕は大きな条件だと思うんですね。特に今ちょっと話がありますけれども、コールセンターなんか結構福岡には誘致されているから、安い人をようけ使お

うということで、例えば糸島とかで人が集まるかといったら集まらないんですね。ですから、やはり車じゃなくても行けるような都心部への交通インフラとして地下鉄の問題、それから先ほど出た宮地岳線の問題等々があるのかなということです。まだほかにいっぱいあると思うんですけども、一応そういうことがありました。

○星野部会長 ありがとうございます。外国人の方々にもっと外から来ていただくように、あるいは中の方が快適に暮らせるように、今49ページに「教育や医療、情報アクセスなどの環境づくりが必要です」と書いてありますけれども、もっとこの中にサポート体制とかがあってもいいですよ。

○委員 皆様のご意見とかを聞いて、そうだと思うけれども、外国人から見ると、福岡はアジアの玄関口ですが、東南アジアの人から日本の環境を見てみると、おそらく大半の人が日本の環境がいい、日本は暮らしやすいと感じています。現状からいっても日本は東南アジアの中で生活の環境がすぐれているところです。外国人は日本に来て、すごく日本にいたいという気持ちが強いのが現状です。もちろん、これからもっと、外国人が来やすい、住みやすい環境、もろもろの面をつくるべきなんですけれども、今、国の課題にもなっていると思いますが、外国人が福岡に、日本にいれるよう条件を緩和しないと、どうしても短期間、もしくは何年かたったら日本を去っていきます。福岡のほうで最終的にそういう課題を解決できれば一番いいのではないかと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。

47ページの目標7で、クリエイティブ産業が福岡にい続けていただくためには、③の「産学官民連携の推進や、関連企業や人材の誘致、集積を進める」というこの努力で、こういう記述で十分でしょうか。何かもう少し求められるものがあるのか、もしあれば追加していただけますか。

○委員 記述に関して言えば、こちらの内容で大丈夫かと思うんですけども、7-3の「ゲーム関連産業の従業者数」で、22年度には約2倍という目標値が定められているんですが、現在、日本のゲーム産業はとても厳しい局面に置かれていまして、国内での売り上げが少子化によって下がってきていて、さらには中国、ベトナムとの価格競争にさらされ、国内でのクリエイティブな仕事が一部海外のほうに出て、産業の空洞化が起きている。

さらに世界的な規模で見ると、この間も少しお話はさせていただいたんですけども、カナダのケベック州なんかは、ゲームに対して3割から4割近い制作費を無期限で支援

するという施策をしております、これに対してイギリス、アメリカ、フランス、もちろん日本も、たくさんの企業がカナダに投資しています。日本からも現地のゲーム会社を買収したり、たくさんの技術者を連れて行って、カナダのケベック州に事業所を構えるといったような状態が現在続いています。ですので、ケベック州の人口700万人のうち9,000人が今ゲーム産業に従事していらっしゃるんです。こういった状態の中で、900人という福岡市の現状から倍にしていくというのは、よほどの施策をしていかないといけません。そうしないと、世界との戦い、争いに負けてしまうことが起こり得るのではないかと思います。そういった施策を入れていただけることを希望しています。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。この目標値のとり方というのも出てくると思うんですけども、今の倍増であればというふうに思いますが、先ほどのケベックの9,000人との比較においてだったら、それで十分とは考えられないので、少しこの内容を精査していただく必要もありますよね。

同じ視点で、スタートアップシティという言葉がここで使われているので、基盤として、ここに書かれているようなことで一通り網羅されているのか、これはどう思われますか。

○委員 僕は前にインキュベート云々と言わせていただいたので、それは入っているのでもいいのかなと思います。スタートアップシティの話を振られたんですけども、もっと気になっていたのは、前の46ページの「農林水産業とその関連ビジネスの振興」で、農業生産額と漁業生産額を持ってくる意味があるのかです。しかも、漁業生産額は横ばい、農業生産額はちょっと増加かなというところで、福岡市が農林水産業と考えたときに、青果市場の位置づけとそこの取扱高がどうなんだとか、地産地消というビジネスの中での取扱高がどうだったかといった指標を持ってくるほうがびんと来るのかなという気がしました。ベンチャーでもあるんですけども、農業分野でもあるので、すみません。

○星野部会長 委員が入られているから、意識してこの部分を書かれたのかどうかわかりませんが、まず福岡はサービス産業の都市であり、この目標6を福岡経済全体としてとらえるのであれば、サービス業について、もう少し現状と課題も入れていただく必要がありますし、農林水産について、今、委員からご指摘いただいたように、もう少し具体性を持った中身を入れていただいたほうがよさそうですので、少しここの記述を工夫していただけますか。

○事務局（藤本） はい。

○星野部会長 どうぞ。

○委員 47ページの目標7の「多様な人材」についてです。女性が半分ちょっといらっしゃるわけで、女性の幹部社員や幹部職員の積極登用で30%とかの幹部職員にすべきだとか、社員にすべきだとか、10年だったら、それぐらいのものが無いといけないのではないのでしょうか。大学もあまり女性の教授はいませんよね。私どもの会社も65%ぐらいが女性なのに1割ぐらいです。そこは入れないと、家では女性が99%の実権を持っているのに、社会、会社、組織、役所全部、申しわけないけれども、能力はあるのに、女性は先入観で軽く扱われているでしょう。これは福岡の都市からしたら、入れないといけないと思いますが、どうでしょうか。急に言って悪いんですけども。

○星野部会長 いえいえ、「多様な人材」というのが、一つのキーワードとして出てきますので、その「多様な人材」が福岡にとって何なのかというときに、確かに今までは女性という視点を入れていませんでした。ダイバーシティーマネジメントは女性だけではなくて、世界ではいろいろな多様性ということでやっています。大学はほんとうに女性が少ないですし、社会、企業を見ても少ないですし、ぜひもう少しそういう視点を入れていただければと思います。

○委員 48ページの施策7-5に「留学生など」という言葉が追記されているのですが、それだったら、指標項目のところに留学生の学校卒業後の福岡での就業率とかいった項目もできればつけ加えていただきたいと思います。それから、この指標項目の3番目にある福岡市の人口に占める若者率、人口統計は何十年か先のものも出ていると思うのですが、これはいくら転入する若者が増えようと、留学生が増えようと、多分そんなに変わらないと思うので、できれば人口に占める若者率というよりも、若者の就業率をいかに伸ばすかの目標を設定したほうが良いのではないかと思うのですが、いかがでしょう。

○星野部会長 そうですね。ご指摘のとおり、若者の人口が減っていくというのは、全体のほうで語られていることですし、先ほどの、例えば留学生がここに残って就職できるかという非常に率が低いと思うのですが、これは努力目標で、かつ、いろいろな施策をすることによって伸ばすことができることもありますし、ぜひ入れていただきたいと思います。

○事務局（藤本） なぜ人口に占める若者率にしたのかは、いわゆる学生の世代で転入してくる層がものすごくあって、教育機関の機能強化というご指摘を受けた形で入れさせていただいているためです。それが1点です。

あとは、いろいろとほかの方々からもご意見をいただいている指標のところですが、先ほどもご説明したとおり、うまく数字としてとれているかどうかがあるのと、この施策についてすべてを網羅する指標を並べていくと、1個の施策について10個ぐらい並んでしまいます。どうしても、すべてを入れる形にはできないところがございます、ご指摘いただいたところについては持ち帰って検討はいたしますが、全部は入れていけないかもかもしれませんので、そこだけご了解いただけたらと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。

○委員 女性の活躍という点でいうと、48ページ施策7-5の指標項目で、「起業者に占める女性の割合」という項目がありますが、これはとらえ方が局所的な感じがします。先ほどの委員のご意見も踏まえると、例えば、議員とか企業の幹部とか、政策や組織の「意思決定に参加する女性の割合」を目標に設定していただいたほうがいいのではないかと思います。

もう一つ、感覚的な意見で申しわけないのですが、その上に、「将来の夢や目標を持っている子どもの割合」の指標がとあります。私も、最近、夢を持っていない若者が多いことに危機感を感じるのですが、設定している目標値が55%という（低い）レベルで本当にいいのかなと単純に思います。（笑）

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。二つご意見をいただきました。起業者に占める女性の割合と見ると4人に1人が女性なのかというふうに見えますけれども、企業、組織の中に占める管理職の女性の方の率は非常に低いですし、もう少し実態として、そちらをとらえていただいたほうがいいですね。

それから、この夢というのは、なかなか難しいと思うんですけども、確かに行って55%かなとも思うし、例えば小学校卒業のときに何になりたいかと書くと、おそらく全員何か出すと思うんですが、これをどういうふうにとらえるのかなと思います。夢や目標を持っている子どもの割合は、どうやって出されているんですか。

○事務局（鷲頭） 実際に各学校で小学校と中学校の生徒にアンケートをとって出してお

ります。

○星野部会長 そうですか。では、それなりに根拠のある数字ということですよ。

○事務局（鷲頭） そうです。

○星野部会長 わかりました。

今、具体的な目標のことをお話いただきました。時間が決して潤沢ではないんですけれども、あまりにも資料が多く、考えることが多いので、できれば5分ぐらいでもブレイクをとりたいと思います。今、後半の目標のところ、まだ、これをつけ加えてほしいということがあればお願いします。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、今5時11分ですから、5時20分前までブレイクをとりたいと思います。

（ 休 憩 ）

○星野部会長 それでは、再開させていただきます。

先ほど指標の話がかなり出てきましたけれども、指標について藤本課長からお話しいただくことになっていますので、資料6について、お話しいただけますか。

○事務局（藤本） 資料についてということではないのですが、おとといの生活の質部会の中で、少し成果指標についてのご意見が出ました。今、施策の項目だけを基本計画で定めます。その施策の方向性ということで、何をやりますというのを、いわゆる施策の検討用資料というほうに送っております。そうやって施策検討用資料に送って行って、指標だけを書いているものですから、先ほど指摘があったように、この指標も、この指標もと追加するような形になってしまうので、施策検討用資料に入れている施策の方向性を基本計画に書いたらどうかというご意見がございました。

また、指標が細か過ぎるので、施策の指標はもうつくらずに、逆に、その目標についての大きな指標を設定したらどうかというご意見がございました。

それについて皆さんのご意見を伺って、その場では議論があったのですが、成長の部会もありますのでということで、部会長のほうで引き取ったような形で終わっておりますので、少しご意見をいただければと思います。

○星野部会長 今お話しいただいたことについて、生活の質のほうではお話が出たということですが、こちらのほうで何かご意見がございましょうか。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長

特になければ、生活の質部会のほうから出てきたご意見を少し事務局のほうでお考えいただきながらということよろしいですか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、パート3に入ります。資料8の福岡市基本計画の空間構成目標をお出しいただけますか。これについて、少しお話をいただきたいのですが、委員のご専門のところでもありますし、前回にいらっしゃらなかったもので、空間のとらえ方とか、このまとめ方でいかがでしょうか。

○委員 前回欠席したので、かなりこの辺もご協議されたのかと思います。福岡は一極集中型の都市構造をそのまま踏襲していかれるのだと思うのですが、私が常々思うのは、都市構造をつくるのはいいんですけども、それを走らせる交通がちゃんとそれに伴っていないのではないかとことです。都市計画法という法律では、道路をつくったり、鉄道をつくったりすることが都市計画の役割だとあるのですが、都市計画法の中に交通という言葉はないんですね。要するに、鉄道とか道路のインフラをつくるというのはそういう意味で、その上にどうやって利便性の高い交通手段を動かすのかは、また別のお仕事になっているんです。ここで言っている空間構造図、空間構造というのは、いわゆる都市計画法の枠内で考えるインフラ整備にとどまっているような気がしています。この構造の上にどう利便性の高いバスを走らせるのか、いろいろな交通手段を組み合わせながら、この構造を生かしていくのかという議論が抜けていないでしょうか。これは、国の法律の体系もそういう形になっているので、市役所もそういう役割分担になってしまっていると思うのですが、私はこの構造をどう生かしていくのかをきちんと考えて、この構造図を考えてみたほうが良いと思うんです。それが懸案事項だと思います。

○事務局（藤本） 今ご指摘いただいたところなのですが、今回は新たに交通が大事だということで、この都市計画構想図の中の57ページのほうに、空間構成目標の実現に向けた交通体系ということで、交通体系を整備した方向性の考え方をここに入れさせていただいております。実際に、こういった基本的な方向性に立って、総合交通体系を確立していこうということです。では、具体的に何をどうするかについては、今後、都市交通のマスタープランなどを住宅都市局のほうが中心になって別途つくりますので、そちら

での議論にはなるのですが、基本的な考え方として、交通が大事なので、総合交通体系をこういうことでやっていこうということを入れております。

○星野部会長 最後の57ページを見ると福岡がコンパクトな都市を目指していると。そういうことを53ページにも2カ所書かれているんですけども、先ほどもご指摘いただいたように福岡型のコンパクトな都市だとすると、最後の57ページにコンパクトな都市の交通体系のあり方という視点ももう少し必要なのではないかと思います。

出口委員、57ページでこういう形で交通体系が説明されているということで、先ほどの都市空間と交通の関係は、これではやはり不十分ですか。

○委員 あまり従来と変わらないような気がしています。例えば具体的に言ってみると、天神から動物園に行こうと思ったときに、直通のバスが出ているんですけども、そんなに頻度が高くないんですよ。もしかしたら、地下鉄七隈線で薬院のあたりまで行って、そこからバスに乗りかえて行くほうが早かったりするんです。けれども、交通料金はバスを待ったほうが安いんです。例えばヨーロッパの都市ですと、こういう体系の構造を持ったときには、ゾーン制という料金体系に既になっていて、ゾーン間を動くについては、どういったルートで行っても同じ料金です。ですから、一極集中型の交通体系に合った交通料金の体系みたいなものがきちんとあって、利便性が高いし、選択肢がいろいろ出てくるんです。福岡の場合は、ほんとうは交通機関が多様にもかかわらず、料金体系が一様ではないので、市民がそういった選択をできないんです。突き詰めていくと、僕はそういうところではないのかなと思っています。

ヨーロッパの都市は、ゾーン制が常識的な交通料金体制になっています。この構造に合った料金体系みたいなものをある程度念頭に置いて議論しないと、なかなか、この57ページの話は文言だけで終わって、ブレイクスルーがつかれないような気がしてならないんです。その辺をどこまで突っ込んで議論していくのか、改善していくのかというゴールが、まだ見えていないのではないのでしょうか。

○星野部会長 ありがとうございます。コンパクトな都市だからこそ、公共交通機関で移動しやすくする、それが今あったゾーン制かもしれないし、異なる交通機関間のトランスファーというシステムかもしれない。福岡がコンパクトな都市を目指しているのだとすれば、「交通はこんなふうにあるべきだ」というのが何か一般論で終わっているような気がしますよね。確かにご指摘のとおりかと思います。事務局のほうでももう少し厚く、福岡型のコンパクトシティとしてのあり方は考えられるのでしょうか。

○事務局（光山） 先ほどご説明しましたように、具体の施策を見せて、どこまでこのマスタープラン上の都市空間構想図の中に書き込んでいくかという課題はあります。具体の施策につきましては、交通マスタープランとか、それを受けた市の各施策の中に反映させていく形に最終的にはなってきますけれども、今おっしゃったような内容を少しでも、この基本構想の中の空間構成目標としてどう受けとめていくかです。例えば、52ページの課題のところにもそういった話がないので、少なくとも課題認識として、そういうところを少し整理して書いていくとかです。そういうところも含めて検討させていただきたいと思います。

○委員 もう一点、都市開発と交通の体系の整備があまり連動していないというのも、ある意味では福岡市の特色というか、悪い意味での特徴だと思うんです。アイランドシティの整備にしてもそうですし、九大の伊都キャンパスの整備にしてもそうですし、交通体系の整備と連動してきていないわけですよ。都心部の再開発にしてもそうで、交通体系の整備と連動していません。コンパクトシティを進めるということは、再開発とか開発の力を利用して、都市の交通体系と合わせて、どういうふうに整備していくかということだと思うんです。それがコンパクトシティ政策ではないのかと思うんですけれども、そのあたりも姿勢がよく見えていません。そういう観点に立ってみると、やっぱり従来と変わっていない、非常に申しわけないんですけれども、文言がただ並んでいるようにしか見えません。そこをもう一歩進めていただきたいと思います。

○星野部会長 前提として入れるだけなのか、あるいはあるべき姿として、そこまで入れるのかは別として、ご指摘いただいた点は入れていただきたいと思います。

安浦会長。

○安浦会長 交通については、多分この10年でかなり大きな変化が起こり得ます。ITとモビリティの融合によって、今まで想定しなかったことができるようになるということです。例えば、カーシェアリングの問題にしても、駐車場があれば乗り捨て自由のカーシェアリングが実際にペイするような形で実現できます。これは今、いろいろところで実験が行われております。そういったものを加えると、例えばアイランドシティや百道、九大の伊都キャンパスなんていうのは、車で移動して乗り捨てることができたら非常に便利で、しかも駐車場用地は十分とれるわけです。天神とは全く違う世界です。しかも、都市高速の環状線が完成して非常に便利になりましたから、それを今度は時間制や、ある時間帯は無料にするなどして、そちらに車を誘導する、あるいは、ある時間帯は高く課金して、その渋滞を減らすといったこともITを使えば非常に楽にできます。

あるいは、バスなんかにしても、オンデマンドのバスの運行をもっとフレキシブルにやることも可能です。

そういうこともあるので、都市の交通体系の使い勝手といった問題まで取り組むという姿勢を少し書いてはどうでしょうか。何をやりますと書いてしまうと、ちょっと無理があると思うんですけども、先ほどのゾーン制のお話とか料金体系についても、必ずしも固定制にしなくて、時間変動制にしてもいいわけですから。そういった問題まで含めた新しい交通体系を持ったまちづくりと一緒にやりますというようなストーリーを書いておいていただきたいと思います。例えば、F u k u o k a D . C . でやっているいろいろな実証実験のトライアルなんかをそっちの方向に誘導することもできます。そこで実験をやっとうまくいけば、全市での展開にもつながっていくと思います。

○星野部会長 空間構成目標の冒頭に「本計画の目標年次である2022年度までの今後10年間、この目標に向かってまちづくりを進めていきます」と書いてあるわけで、この2022年までには七隈線も全通するわけですね。ですから、ご指摘いただいたような交通体系と連動した都市空間というものにもう少し踏み込んで書いていただければと思います。お願いします。

○委員 私ばかりで申しわけないんですけども、今の安浦先生のお話にちょっと刺激されました。

東京のほうでも今いろいろな取り組みが進んでいるんですけども、キーワードは徹底的に見える化するという事です。どういうところで今交通の渋滞が起きているのか、どういうバスが今どの辺を走っているのか、そういうことをITを使って徹底的に交通の見える化をしていこうということです。そうやって市民に見えるようにすることで、いろいろ市民の選択肢を増やしていかないといけないんです。そのために交通料金体系も改善していかなくてはいけなくて、徹底した見える化と市民の選択肢を増やしていくために、料金体系などの仕組みはどうあるべきかをきちんと考えていただく必要があると思います。

○星野部会長 お願いします。

○委員 今、空間の中で道路の問題が出ていて、交通体系の方向性ということです。今後10年の計画ということで、最初、この議題が始まる前には、震災害のことが中心に出て、全部ばらばらに出ていますが、実はこの安全保障、災害対策というのは、すべて含まれるものです。福岡はご存じのとおり、博多湾を中心に扇形に都市が形成されるいっ

て、特に縦道路の弱さが非常に問題になっています。そこで、議会のほうでもさまざま言っていますけれども、都市が狭いので広い道路ができません。阪神・淡路大震災の経験からも、12メートル道路以上を拡幅してつくっていかなければ、万が一、近い将来に都市が崩れ、道路が寸断された場合には一切救助の車も入れません。鉄道の話もバスの話も出ていますけれども、当然これらは全部とまります。最悪の場合を想定したら、道路が住民避難誘導も含めた上のすべてのかなめということになります。そういった視点もぜひともきちんととらまえて、この中に入れていかねばならない時代が来たのではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

○事務局（藤本） そのような観点について、もう少しきちんと書き込みをしたいと思えます。ありがとうございます。

○星野部会長 ありがとうございます。今の問題点として、今まで単に都市空間として考える以上にいろいろな問題があって、それをわかった上での次の10年間なんですから、ぜひそれを反映させて、具体的な空間としてとらえていただきたいと思えます。

ちょっとこれは書き直して、また次回にご提案いただきたいと思えます。

空間目標はこれでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、今日最後のパート4に入ります。資料9の「区の目標」をご準備ください。これは今日初めてお話しいただきますので、まず事務局のほうから簡単にご説明いただき、それからの審議になります。よろしくをお願いします。

○事務局（藤本） それでは、資料9を説明させていただきます。

1枚めくっていただきまして、58、59ページから始まっております。それぞれの区ごとの目標ということで、分野別目標と空間目標の両方を「区」という範囲で切り出したということでございます。

東区の目標といたしまして「すみやすい、あんしんなまち・東区～海と緑と歴史を感じ、新しい魅力を生み出す、住みやすいまちづくりをめざして～」としております。区の概要として、歴史的遺産があり、自然の魅力にあふれております、また、大学や短期大学が立地していますというようなことを挙げております。

現状と課題としましては、多くの子育て世代が暮らす東区で、孤立化の話、虐待予防について求められており、また、アイランドシティや香椎の土地区画整理事業などの新しいまちづくりも進んでいるということを挙げております。

まちづくりの方向性としてしましては、安全で安心して暮らせるまちづくりを行います、

また、子どもが健やかに育つまちづくりを行います、人を大切にして、みんなが生き生きと活躍できるまちづくりを行います、としております。そして、多彩な魅力にあふれ、環境と共生するまちとしてアイランドシティを活力創造拠点として、魅力、活力を生み出すまちづくりをします、また箱崎キャンパスが移転した後のまちづくりについても取り組めます、ということにしております。

次に、60、61ページをお願いいたします。博多区でございます。「お互いが支え合い、安心して人が暮らし、歴史と伝統が息づくまち」という目標を掲げております。区の概要としては、事業所数が7区の中で最も多く、また、ウオーターフロント地区に集客交流施設が立地していたり、神社・仏閣があり、伝統的な祭りや文化が盛んになっているということです。

現状と課題といたしましては、都心部では単身世帯が非常に増加しておりますので、コミュニティの活性化を図る必要があります、また、陸海空の玄関口を博多区が持っておりますので、集客機能を強化していくことが必要です、というところでございます。

61ページのまちづくりの方向性といたしましては、お互いが支え合って、交流して、健やかに暮らせるまちづくり、また、安全で安心して暮らせるまちづくりを行っていきます。歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまちづくりということで、地域や企業と一緒にイベントの開催ですとか、また、九州福岡の玄関口として魅力的な整備や利便性の向上を図っていきます、としているところでございます。

次に、62、63ページをお願いいたします。中央区でございます。「人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」」ということで、にぎわい、元気、安心がつながるまちを目指します、としております。区の概要といたしましては、単身世帯が全世帯の6割に上って、博多区に次いで高い割合になっています。また、女性の人口が多く、特に20代、30代の女性が多い、また小売業が市内最大の販売額を誇っているというところでございます。

現状と課題といたしましては、9割の住民がマンション等の共同住宅の居住者で、人口の流動も多いので、コミュニティの希薄化の懸念などでございます。また、都心部であるということで、ひったくりや落書きなどの犯罪が増加しているというところでございます。

63ページ、まちづくりの方向性として、自然、歴史、地域の魅力を生かしたにぎわいのあるまちづくりということで、都心部のエリアマネジメントの推進などをしていくというところでございます。また、思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるということで、コミュニティ支援などをやっていきます。だれもが安心して暮らせるまちということで、犯罪が起りにくい環境づくりとか自転車対策などをやっていくというところにしております。

次に、64、65ページが南区でございます。「いきいき南区 暮らしのまち～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～」という目標を掲げております。区の概要としましては、昼間人口に比べて、夜間人口が多い暮らしのまちです、また、ため池が56カ所あるというのが大きな特色になっています。また、七つの大学、短大が立地する文教地区でもあります。

現状と課題としましては、2022年は65歳以上の人口が4人に1人ということで、高齢化がさらに進行することです。また、大牟田線から離れている区の南西部地域は、バスが主要な交通機関になっていますが、丘陵地でバスが通ることができないところに地域を循環するバスの導入の対応策が求められているところでございます。

65ページ、まちづくりの方向性として、人のつながりや交流を大切にして、地域で支え合う、住民が主役のまち、また、みんなに優しい、安全で安心して住み続けられるまち、そして、川やため池、里山などの身近な自然と触れ合える潤いと安らぎのあるまち、また、大学や周辺地域との連携や交流、文化活動が盛んで活気あふれるまちづくりを大学が持つ情報や専門的知識などを生かしながらやっていきます、としております。

次に、66、67ページが城南区でございます。「豊かな暮らしがあるまち・城南区」ということでございますが、北部はマンション建設などで都市化が進み、文教地区を形成している一方、南部のほうは豊かな自然環境がすぐ近くにあります。福岡大学と中村学園大学の二つの大学があつて、まちづくりの大きな活力になっています、ということです。

現状と課題としては、福岡大学と中村学園大学の学生数の2万5,000人が区の人口の約2割に相当しますので、これが大きな資源になるというところでございます。

67ページで、まちづくりの方向性として、安全で安心して暮らせるまちをつくってまいります、また地域で支え合うぬくもりのあるまち、地域に開かれた大学のあるまち、自然環境を大切にするまちづくりを進めていきます、というところでございます。

68、69ページが、早良区でございます。「～ひと・みず・みどりが光り輝く ふれあいと交流のあるまち～」というところでございますが、早良区は、北はシーサイドももちから、南は脊振山系まで、南北に非常に長く広がる地形になっております。

現状と課題については、シーサイドももちは成熟期を迎えておまして、一層の活性化が課題ということで、地区の一带化や回遊性の向上でさらなる拠点形成が必要です、としております。区の中中部につきましては、団地住民の高齢化や人口の減少などで、地域コミュニティづくりに支障を来すところも見られ、区の中南部地域につきましては、貴重な農業地域になっておりますが、一方で高齢化や過疎化の問題、日常生活に必要な公共交通機関の維持などが課題になっているところでございます、としております。

まちづくりの方向性としては、お互いが支え合い安心して暮らせるまち、早良区の特性を生かした魅力あるまち、地域の魅力を生かしたまちづくりということで、北部については活力とにぎわいがあるまちにしていく、中部については地域の新しい拠点ということで、七隈線や外環の沿線を中心に、新しいまちづくりが進め、また、南部については、豊かな自然を生かした市民の憩いのまちをつくり、というところでございます。

70、71ページが西区でございます。「自然と大学の知を活かし 安全で安心して 生き生きと暮らせるまち～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～」という目標としております。区の概要としましては、史跡も数多く残っております、また三つの島を抱いております。九州大学の伊都キャンパスへの移転が進んでいるところが大きいところかと思っております。

現状と課題としましては、市街化調整区域では人口減少や高齢化、公共交通機関の減少などの問題が顕著に生じている地域もあって、地域の格差があらわれてきています。九州大学の伊都キャンパスは、移転完了時には学生、教職員合わせて1万8,700人が通う九州最大のキャンパスになっています、としております。

71ページ、まちづくりの方向性として、自然を生かし、環境に優しいまちづくりを進め、にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合い、生き生きと暮らせるまちづくりを行います、ということです。また、大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまちということで、大学のキャンパスの知と人材をまちづくりの新しい宝と位置づけてやっていき、子どもから高齢者までが安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていきます、ということでございます。

説明は以上でございます。

○星野部会長 ありがとうございます。

今、ご説明いただいて、これから東区の記述はどうでしょうか、博多区の記述はこれでいいでしょうかというふうにお話しをするには、少し戸惑いがあります。

これをいただいたときに三つの戸惑いを感じたんです。まず、総合計画審議会でこういう区のそれぞれのことも話し合うべきなのか、おそらく、そこについて詳しい知見をお持ちなのは市会議員で、それぞれのところで活動されている方以外には、あまり自分の区について知らないのではないかと、そういう中でこの審議会の中に入れるべきかということが一つ目の戸惑いです。

二つ目が、書かれていることがほとんど生活の質の部会で話し合われるような快適なまちづくりではないのかということです。

三つ目の戸惑いは、とはいいいながら、この審議会が生活の質と都市の成長と二つから成り立っている以上、もう少し各区としても都市の成長に貢献する区のあり方というの

は考えるべきではないか、しかし、それが全く入っていないということです。入っているとすれば、九大の新しいキャンパスぐらいで、あまり入っていません。

ということで、実はこれを見せていただいて戸惑いを感じまして、そういう意味で、「さあ、博多区についていかがでしょう」とお聞きしても、何かあまり実りある議論にならないのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

安浦会長、いかがでしょうか。

○安浦会長 おっしゃるとおりだと私も思います。まず、形式上の問題が一つあると思います。それぞれが人口のグラフをかいていて、それが全部違ったフォーマットで出ているとか、地図の入れ方も各区でまちまちのかき方をしているとか、この辺はやっぱりちゃんと統一していただきたいです。それで、あるフォーマットに固めて、本体の市全体の施策を受け、各区はどういう役割を担うのかという形でもう一度整理していただきたい。そして、それについてご議論いただくのがいいのではないのでしょうか。もちろん、今ざっと見ていただいて、目につくところをご指摘いただいてもいいと思いますけれども、あくまでもこれは、市全体の計画を具体的に区レベルに落としした施策の見える化という位置づけでやっていただければいいのではないかと思います。

○星野部会長 ご意見がおありですか。

○委員 私は、部会長が言われたとおり、そもそもこれが、この部会で議論する対象範囲なのかが疑問です。今、ここでの命題は、市の基本構想とか基本計画を立案するという事なので、それをきちんと固めて、その後、それぞれの区にブレイクダウンするところは、それぞれの区なり、そこを所管するところが自律的に決めればいいのではないかなと思います。ざっと拝見して、実際にばらばらだったり、非常に似たような文言がいっぱいあったりして、多分この政策自体が区のご意見を反映されているからこうなっているのだろうと思うので、そういう状況を考えても、この部会で話すべき内容ではないのではないかとこの疑問がございます。

○星野部会長 ありがとうございます。

私も基本構想、基本計画はこちらで話し合っ、それを区に落とし込んだらどうなのかは、別にさせていただいたほうがいいのではないかなと思ったんです。しかし、実はここで、「それでは都市の成長部会としては話し合いません」となると、おそらく安浦会長のもとで全体が集まったときに、やはり話し合わなくていけないのかなと思いますし、ここで放棄してしまうのも何かなと。そうすると、先ほどもご提案いただきましたよう

に、ちょっとフォーマットを変えて、よろしければ、ここにある生活の質に関する記述だけではなくて、それぞれの区において都市の成長に貢献できるような内容とはどのようなものかを入れていただいて、それで、次回の第4回目でも話し合えるようなやり方で出していただけたらどうかと思います。それについては、まだわずかですけれども時間がありますので、今、こんなことは入れたほうがいいのか、例えば、中央区はこういったこと、博多区はこういったこと、あるいは南区はこういったことを入れておくべきではというご意見を皆さんにいただくことは必要だと思うんです。しかし、全体のフォーマットとしては、もう一度出していただいたほうがいいのかと思うんですが、それはいかがでしょうか。

○事務局（藤本） 実は、次回の部会は来週に設定されておりますので、今回と次回に議論はしていただくことといたしまして、その後パブリックコメントという段階がございまして、その市民の方のご意見も踏まえた後に、幸いその後の部会がございまして、可能な範囲は対応させていただこうかと思うのですが、結構大きな修正ですので、今日いただいたご指摘でしっかりつくり変えてというところまではできないかもしれません。フォーマットについては見え方みたいな話なので、そこは随時やらせていただくとしましても、こういったところが抜けているとか、こういったところも書くべきというところは、今回と次回と合わせてしっかりご議論いただき、それを踏まえて、総会までにある程度の修正をさせていただけたらと思います。

○星野部会長 もう一つの生活の質部会は、たしか次回は8月21日だと思いますし、総会までに大きなフォーマットも含めて、ちょっと考え直していただくということでお願いします。ただ、次回のこちらの第4回までには時間がありませんので、今限られた時間ではありますけれども、例えば、中央区ではもう少しこういう考えを入れたらどうかとか、そういう今できる範囲でご意見をいただけたらと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○池内副部会長 区ごとではないのですが、空間構成目標の後に、そのままこれがダイレクトに来るということで、何となく全体像が見づらいなということがあります。

あとは、面積であるとか人口については、区ごとではなくて、全体像の比較みたいな形で入って、その後に区に入っていくほうが、大変見やすいのではないかなと思っています。区ごとにはフォーマットを1個別につくってもらうという形でしてはどうでしょうか。

○星野部会長 福岡市としてのファクトとかフォーマットがあって、ここに入ってくるほうがということですね。

○池内副部会長 そのほうが、空間からの入り方がいいのではないかと思います。

○星野部会長 お願いします。

○委員 今、部会長が最初にこの問題でおっしゃったように、都市の成長部会で話し合う内容として、この区の目標で都市の成長の部分の案のたたき台があるのか、ないのかについて当局から回答がありませんでしたが、間に合わないのか、それともこちらからゼロから出すような話になるのでしょうか。今見ると、生活の質の部会の話しか入っていない感じがしますが、どうでしょう。

○事務局（藤本） 今のところは、都市の成長のところも踏まえてつくっているところですので、アイランドシティとかが少し入っていますが、どうしても区が市民に近いところで、安心安全のところのボリュームが非常に大きくなっていて、成長のところについては少し触れられているくらい状態になっているところです。決して入っていないわけではないのですが、不十分かなとは我々も思います。ただ、そこについて、次の来週までにつくってご提出するのは難しいかと思しますので、特に、このあたりが足りないということでは言っていましたら、31日の全体の総会までに、ご意見を踏まえて直していただけたらと思います。

○安浦会長 この空間構成目標の54ページの図の中に、副都心部としての、南部広域拠点、東部広域拠点、こういうものがきちんと位置づけられているわけです。それが入っている区は、そこに関するメンションはやっぱりきちんとしていただきたいと思います。また、55ページに主な拠点の性質も書かれているわけなので、そういったところをちゃんと区の言葉で書いていただかないといけません。これをパブリックコメントにつけて出されるわけですね。そうすると、市民はやっぱり自分の住んでいる周りがどうなるかという視点で物を見ますから、そこのところを読むわけです。そしてこの委員会は全体像の議論をしていますから、そことかなりの食い違いが出てくる可能性があります。あくまでも両部会で議論した全体像で出てきた言葉をきちんと各区の計画の中に埋め込め込むという整合性をとってから市民の前に見せていただきたいと思います。

○星野部会長 そうですね、せっかくそれぞれの機能を持つと書かれているのですから、

その機能がその区ではどうあるべきかというのは、確かに最低押さえていただく必要がありますよね。

ほかにいかがでしょうか。

○事務局（光山）　ほんとうは前半戦の空間構想図あたりまで行って固めた後に、区の計画をつくっていくという形にすれば、議論等も十分生きるかと思うんですけれども、我々の時間設定も含めて非常にタイトな形で進めさせていただいており、同時並行で、区のほうの計画と本体のほうをやってきております関係上、十分に反映できなかったところもございます。そこはもう十分おわびしたいと思います。何とか、できるだけ整合させて、パブコメの案まで持ち込みたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○星野部会長　それでは、もう時間も限られていますので、第4回目の次回に皆さんに区の目標をごらんいただいて、要素というものを出していただいて、それをできる限り8月31日の全体会議のときまでに枠組みを含めて変えていただき、出していただくということによろしいですか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長　それであれば、もう一度見直していただきたいということです。

それでは、皆さんから非常に活発に、いいポイントで、それぞれの視点からご意見をいただきましたので、ようやくここまでたどり着きました。時間内に何とかおさまりましたので、今日の審議はこれで終わりたいと思います。

事務局のほうから何か連絡事項はいかがでしょうか。

次回以降の日程について

○事務局（藤本）　事務局からご連絡させていただきます。お手元に質問・意見表というのを今回つけさせていただいております。ファクスでそのまま送っていただけるようにさせていただきます。今日は時間不足のため、言い足りなかったところのご意見ですとか、あとは先ほど申しました意識系の成果指標で、こういう意識調査をやったほうが良いというものは、少し急いでご意見をいただければと思っております。大変恐縮なのですが、可能であれば、8月7日までに一たんファクスなどでいただければと思います。もちろんメール等でも構いません。よろしく願いいたします。

また、受付で配付させていただきましたチラシについてご説明させていただきます。8月末に第2回の総会で原案を審議した後にパブリックコメントの手続に入っていくこととしております。それにあわせて、たくさんの市民の方に総合計画に関心を持っていただいて、それをもってパブリックコメントにどんどん意見を出していただくという

ことで、500人という日本最大級規模のワールド・カフェをやることにしております。ぜひ、皆様にも可能な方はご出席をお願いしたいと思います。また、お知り合いの皆様にも、ぜひお声かけいただければと思います。チラシをたくさん欲しいという方は言っただけであればお届けいたしますので、ぜひよろしく願いいたします。

そして、次回は8月9日木曜日の15時半から18時、同じこの場所の天神ビル11号会議室になっておりますので、よろしく願いいたします。

3 閉会

○星野部会長 それでは、次回はもう一度今日の資料をごらんいただき、基本構想、基本計画、それから区別に入れるべき要素ということをご持ちいただき、ご参加いただきたいと思います。

どうもお疲れさまでした。

閉 会